

指定校番号	28063	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長	梶原 弘志	生徒指導主事	徳重 雄大
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『二分の一成人式』

取組のねらい『キーワード 自立と自律』

- 厳かな機会を通して集団の場における規律・気品ある態度を育てる。
- 10年間の自分の成長の跡を振り返り、自分の成長を確かめ、自己存在感や自己有用感を高めさせる。
- 二分の一成人式の計画や実行を通して、児童の自主的・実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 見通しを持った取組』

【目標の共有化】

4月

- 前年度の3学期に二分の一成人式が行われることを児童に伝え、二分の一成人式に向けて取組を進めていくことを示した。児童は3年生の段階で二分の一成人式に参加することで、式のイメージをもつことができていた。
- 二分の一成人式が行われる意義について話すことで、目標を共有化した。また、意欲の向上を図った。

【他行事との関連】

5月

- 運動会の入場行進や開閉会式の姿勢も、二分の一成人式との関連を図ることで、児童もより意識を高めて練習に取り組むことができた。また、振り返りをしっかり行い、次の取組に繋いだ。

9・10・11月

- 音楽発表会に向けての取組を二分の一成人式との関連を図った。児童会のテーマをもとに練習や本番に挑む態度や姿勢をイメージし、意欲を向上させた。

【主体的な準備・活動】

- 児童が中心となって、二分の一成人式・第二部の計画、準備を主体的に進めさせた。

取組の課題・創意工夫『キーワード 計画・準備の充実』

【課題】

- 二分の一成人式のねらいや、各活動の意図を保護者に十分に伝えることができていなかった。
 - ・保護者の方々に活動の一環としてお願いすることが多くあったが、学校側のねらい等を十分に伝えることができていなかったため、保護者の負担感が大きかった。
- 小学校生活6年間を見通した取組に位置づけることができなかった。
 - ・二分の一成人式をもとにした一つのサイクルにおいては目標を達成することができたが、そこで得た力を他の行事で生かしたり、日常生活の中で生かしたりするための計画が不十分であった。

【創意工夫】

- 児童と教師の目標の共有化を図った。
- 二分の一成人式（第二部）の計画、準備を児童主体で行わせた。

取組の成果（効果）『キーワード 児童の主体性が自己存在感・有用感を高める』

- 運動会や音楽発表会などの行事，始業式などの儀式的行事において規律正しい態度で参加する力が身についた。（児童のふり返りより）
- 活動の計画段階から児童が主体的に取組み，各グループのリーダーは全体を見通し，指示を出すことができた。さらにリーダーを中心に全体がまとまり，それぞれが協力していく雰囲気は全体的につくられていった。
- 児童の自己存在感，自己有用感を高めることができた。
 - ・ASSESS（アセス 学校環境適応感尺度）による判定で，学校生活や友達とのかかわりについて，肯定的評価の児童の割合が高まった。
 - 4年生 6月・・・85.5%
 - 11月・・・87.8%（前回比2.3%増）

今後の展開『キーワード 広島版「学びの変革アクション・プラン」との関連』

- 特別活動の計画（学年間の系統性や関連）を見直していく。また，見直す際には，平成30年度から全県展開される広島県版「学びの変革アクション・プラン」をもとに工夫改善していく。

他校へのアドバイス『キーワード 学校と家庭が一体となって』

- 二分の一成人式の計画・実施に当たっては，家庭の協力が必須である。しかし，学校と家庭との認識のずれが生じると保護者は取組の負担感が大きくなったり，式実施に対する価値が下がったりする可能性がある。よって，計画段階から保護者との密な連携や丁寧な説明が大切であると考えられる。